

第4回小山市総合都市交通計画策定委員会

議事録

日時 : 令和元年 10 月 30 日(水) 14:00~16:00

会場 : 小山市立文化センター 第2研修室

出席者 : (委員)9名出席(うち代理出席2名)、5名欠席
(オブザーバー)2名出席、2名欠席

事務局 : 小山市都市整備部都市計画課

<次第>

1. 開会

2. 自己紹介

3. 委員長挨拶

委員長 :

今日は第4回目の総合都市交通計画策定の委員会ということですが、我が国、世界他の国もだが、このような交通計画を策定する場合には、パーソントリップ調査と呼ばれる1日の人の行動を調査するという調査を行い、それに基づいて現状を把握し、また将来を予測した上で計画していくものである。本日の会議では、昨年度実施されたパーソントリップ調査の詳細な結果についてご紹介がある。また、それに基づいて、将来の交通体系の目指すべき方向性等も議論いただきたい。

4. 議事

事務局 :

これより議事に入る。本会議については、個人のプライバシーに関する事項を除いて、原則公開としたいので、ご了承いただきたい。

それでは、条項第7条において、委員長が議長になるとあるので、委員長に議長をお願いしたい。

(1) 市の交通の現況について

副委員長：

高齢者の外出率が上がっているとか、1日の平均のトリップ数が増えているといった傾向は、元気な高齢者が増えており、そのような方々が外出するにあたって自動車の保有が増えているということ、便利なコミュニティバスが導入されたこともあり、交通が不便だから外出できないという人がかなり減ってきているということで、よい傾向だと考える。その反面、若い人の外出率が減っているというのがやや気になる。資料2において若者という項目も立てて整理されているということは、小山市にとってなんらかの政策課題だと捉えているからと思う。

一方で、資料2のP5の右側をみると、15歳～24歳、24歳～64歳は外出率も減っていて平均トリップ数も減っているという状況であり、外出している人のみに着目すれば、1日のトリップ数は今までと変わらないかもしくは増えている可能性もある。基本的に今回示している平均トリップ数は全てグロス原単位で、外出した人もしない人も含めて出した平均値だと思うが、なぜ若者が動いていないか、本当にそうなのかも含めて分析する上では、外出していない人を除いた平均であるネット原単位も示して議論をする方が生産的なのではないか。今後もしそのような集計が可能であれば是非示していただきたい。

事務局：

今後、分析・検討していきたい。

委員長：

今回示されている平均トリップ数というのは、全て外出していないゼロトリップの人も含めた平均か。一部、説明の中で外出した人のみのトリップ数というのもあった気がする。

事務局：

基本的に、外出していない人も含んでいる、グロス原単位のトリップ数である。

委員長：

資料『小山市民の1日の動き』の一番右上のグラフが外出した人だけと言っていたような気がする。

副委員長：

この値がネット原単位だと、高齢者が行って帰って来られない。

A：

バスに関しましては、小山市 30 年ほど前から進めている。高岳線は、当時の運行業者が急遽 1 週間程度でやめることになり、市の方から運行のご依頼を受けて、現在も高岳線を動かしている。小山市のコミュニティバスは、実は県でもナンバー1に近い、全国でも 10 位以内には入っていると聞いている。小山市のバスの状況、ないし、県から比べて、あるいは全国から比べて、どのような位置であるかということがわかれば教えてほしい。

委員長：

小山市のコミュニティバスの運行に関して、他のところと比べた特徴を知りたいということか。

事務局：

おっしゃる通り、以前コミュニティバスは循環型路線バスで、市内全域を網羅するように運行していた。平成 22 年、23 年にかけてそれを整理し、循環型バスを往復運行に変えた。その結果、便数が多くなった。郊外についてはデマンドバスを配置し、路線バスとデマンドバスを乗り継ぎ拠点で結ぶことで今の運行体制を整えた結果、71 万 3 千人という利用者数に整理したところである。

委員長：

他の市町村と比較してという点はいかがか。

事務局：

他の市町村となると、なかなか勉強不足で不明な点があり、申し訳ないがわからない。

B：

定かな数字は持ってこなかったが、小山市の公共交通の状況からいうと、私の記憶では、県内において結構優秀な方である。県全体では、収支率は大体平均 2 割くらいのところ、小山市は、かなり工夫されていたり、路線バスに重点をおかれていたりして、収支率が優秀な状況だったような気がする。

事務局：

小山市の収支率は46%である。

C：

資料『小山市民の1日の動き』を見ていただくとわかるが、他の地方都市と比べると、小山市はバスの分担率が0.3%、他の地方都市2.4%なので、実はコミュニティバスの成績はいいが、市民全体がバスを利用しているかというところではない。その大きな要因は、小山市に路線バスがないからである。通常コミュニティバスは、路線バスの補完的な役割を果たすものが一般的だと考える。それに対し、小山市のコミュニティバスは通勤通学にも使っているため、その分利用者も多いという風に捉えている。ただ、鉄道は他の都市より利用されているので一概には言えないが、通勤通学に使えるバスというものが、小山市にも必要なのではないかということ、後々に提案したい。

C：

子育て世帯の項目についてももう少し丁寧な説明をお願いしたい。どこのグラフと比較して子育て世帯の特徴を述べているのか見きれなかった。皆さんもよくわからなかったのではないかなと思う。

事務局：

それではまず、P7左側の上段の図について、30～45歳女性の就業状況別、子どもの有無別、世代構成別の1日あたりの平均トリップ数であり、左側が就業している方で、子育て世帯、子育て世帯以外を分けている。さらに、子育て世帯を、夫婦とお子さんで住んでいらっしゃる方、おじいちゃんおばあちゃんと夫婦とお子様の3世代、という分け方をしている。右側のグラフは、就職されていない方のグラフである。これらの図のうち、子育て世帯の部分を見ていただくと、私事トリップ数が、子育て世帯の数と比べると多い傾向となっている。

委員長：

どことどこを比較しているのか。また、数字を読み上げてもらえるか。

事務局：

子育て世帯のなかで、一番上側の夫婦と子については1.4、祖父母と夫婦と子については0.87である。一方で、下側のグラフでは、夫婦のみの1.13、祖父母と夫婦は0.36となっており、子育て世帯の方が多い傾向となっている。

委員長：

途中で関連しての質問になるが、これは30～45歳の女性で既婚者の方のみなのか。独身の方も含まれているか。

事務局：

独身の方も含めて30～45歳全員を対象に集計しているが、今回は比較させていただくために、独身の方々はグラフに表示させていない。そのため、今グラフで表示しているのは、既婚されている方たちとご認識いただければと思う。

委員長：

各サンプル数は、全体に対してそれぞれどの程度の割合か。既婚者で子どもがいない方はサンプル数が少ない印象があり、かなりマイナーな部分と比較されている感じがする。

事務局：

今、手元に正確な値がない。

事務局：

P7 左側下段の図につきましては、私事トリップの目的の内訳となっている。この内訳をみると、就業している方の送迎トリップ数は、子育て世帯以外が0.43、0.05に対して、子育て世帯が0.69、0.35と多い傾向になっている。非就業の方についても、子育て世帯以外の下のところについては、0.26、0.05に対し、子育て世帯が0.69、1.21となっている。ご指摘のあったところは、追加で分析していきたい。

事務局：

資料の不備が1件あったので、ここでお詫び申し上げます。P2の左側下段の図について、市街化区域を表す赤の点線が少しずれてしまっている。本来は、上段の図と同じ位置にくる

事務局：

もう1点追加で申し上げます。P5の左側下段の交通安全のところ、高齢運転者による交通事故件数推移について、このデータは全国の死亡事故である。

C：

事故数か、死者数か。

事務局：

死亡を伴う事故の件数である。

委員長：

全体的な傾向として、高齢者の外出率は増えているが若者の外出率が減っており、車が大幅に全体的に増えている。20年間の変化は他の日本の都市と同じような傾向が出ているが、先ほど言われたように、他の地方都市と比べても小山市は少し自動車の割合が高く、バスの利用が低いという特徴がある。また、小山市のなかでも、地区による違いやバスの利便性、バス停からの距離とか運行頻度においても少し外出の違いがあるというようなことが今回の分析でわかったと思われる。

(2) 都市交通体系の目指すべき方向性の質疑応答

D：

SDGs という言葉を言われても一般の市民はわからない。日本語で書けばいいのではないか。なんでわざわざわからなくするまとめ方にするのか。

委員長：

国際的に SDGs と言われている。

C：

「持続可能な開発目標」というが、一般的には SDGs と言われている。

D：

この間の行政改革の委員会でもこの言葉が出た。わざわざわからなくしているというイメージをもたれてしまう。わからない人にもわかるようなものを作らなかったら、何の意味もない。

それと、「高齢者がイキイキと活動するための外出環境の実現」について、私どもは桑地区なので、小山市ではないが、小金井駅が、実際にバスが小山駅との間をバスが往復して、利用者もそこそこあるのに、こういうものを全然出さないことも、結局利用者が増えない原因ではないのか。

委員長：

最後に用語集のようなものをどこかにつけるとか、そのページに日本語での説明を書くとか、市民の方も読まれるものであれば、工夫をした方がいいかもしれない。小金井駅の件は、たしかに小山市の周辺の市町村との連携もあると

思うので、もちろん考慮には入れた方がいいのではないかな。

A :

シェアサイクルに関して、野木町と小山市の連携の委員長となったが、その後の報告がない。野木町と小山市のデータがとれないという問題があるから、やむを得ないと思うが、小山市だけでも、電動自転車はどれぐらいの比率になっているのか、実際どのコミュニティバスの活用がこんな風になっているというデータを事務局の方で報告してほしい。委員長に任命されて、なおかつデータもその後なんの報告もないっていうのはちょっとまずいのではないかなと思う。

E :

シェアサイクルについてはひと通りデータはあるので、後でお示ししたい。

副委員長 :

目標が5項目あるのは大変わかりやすいと思う。

せっかくのパーソントリップ調査のデータなので、どのような人がどのようなどころに行っているか、高齢者の方がいきいき活動する場所はどこなのか、あるいは中心市街地にやってくるような人はどのような人なのか、市民が買い物に行っているところはどこなのかというようなことを、きちんとパーソントリップ調査の基礎分析としてやっていただいた方が、おそらく目標①③を考える上では、非常に参考になるのではないかなと思う。中心市街地活性化を考えるときに、小山駅から鉄道を使って、市外に通勤通学している、あるいは逆に小山市に来られているような方は多いと思うが、単に小山駅周辺が通過点になるだけでなく、そのような方は小山駅周辺に毎日来ているので活性化に貢献していただけるような可能性があると思う。自宅から中心市街地にやってきて帰るという方ももちろんだが、乗換等で通過しているという方も多くいると思う。そのような方がどれくらい、どういう風に時間を過ごしているとか、どのような個人の属性であるとか、そのあたりも非常に重要な計画の情報になると思うので、是非そのあたりの分析もしていただけるとありがたい。

事務局 :

ご意見を踏まえて、追加の分析を検討、まとめていきたい。

F :

前段の調査で小山市の現状というのを説明いただき、先ほど目指すべき方向性、今後の計画策定ということで色々な課題などの説明を受けたが、今後自治体のなかでもやはり人口が減少して、また高齢化も進んでいく中で、都市交通というのは、どこの自治体でも今後知恵を絞って考えていく課題で、小山市でも重要なものだと思う。

そのような観点からみると、この課題のなかで出ている、特にバス沿線でない居住者が外出していないという傾向があって、また将来人口との見通しのなかでは市街化調整区域での高齢化率の増加といったことも示してあるが、私は、いわゆるニュータウンについて懸念している。現状で、美しが丘や犬塚は人口が増えていくことになっている。そうなってくると、たとえばニュータウンにおいて、買ったときはまだ現役世代の人たちが、高齢者になっていくことを考えると、やはり高齢化率というのは、市街化調整区域だけに着目するべきではないと思う。やはり新技術というところで色々なことを考えていく必要があると思うし、愛知県の春日井市だと思うが、トヨタさんと連携して、そのような団地で、いわゆる次世代モビリティというものを活用することを検討しながら実験しているところもある。

今までの20年でこれだけ変わってきているので、10年15年後も生かす計画を策定するには、そのあたりも含め、具体的に見据えた計画にさせていただきたい。今のパーソントリップ調査でわかる現状ではなく、今後これがどういう風に変化していくかを見据えることが今後重要になってくるのかなと思う

事務局 :

ご意見を踏まえて検討していきたい。

委員長 :

たしかに今回のパーソントリップ調査のデータというのは、非常に貴重で、副委員長も言われたように、まだもう少しわかるところもあると思われる。計画に使えるような情報を引き出せそうなので、そこはもう少し分析してもらった上で、大木委員が言われたように、たしかにこの先さらに次世代モビリティというような技術もどんどん進化して、人口もさらに減少し、土地利用の方でも立地適正化計画等で将来の土地利用をどうしていくか、それと交通計画を整合させなければいけないと思う。今後どう技術や人間の行動が変化していくか予測も難しいが、将来のことを見据えた上で今後の計画づくりを進めていただきたい。

事務局：

今回は、将来交通需要予測を検討し、交通手段毎に予測して、また、交通施策を検討し、粗々な交通計画としてのまとめを委員会の方でお見せできたらと考えている。

委員長：

では、今日のご意見を踏まえて今後の作業を進めてほしい。

5. 閉会

以上